

学校 教育 目標	「笑顔いっぱい チャレンジいっぱい 奈良の丘」 ○自ら考え、進んで行動する子を育てます【知】 ○互いに認め合い、高め合う子を育てます【徳】【公】 ○たくましく、共に生きる子を育てます【体】【開】				
学校 概要	創立 26 周年	学校長 浅川 聡子	副校長 水元 健太	2 学期制	一般学級：10 個別支援学級：3
	児童生徒数： 255 人	主な関係校： あかね台中学校 田奈小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	あかね台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する能力 問題発見し解決する能力 地域の人やもの・ことに自ら関わる力	あかね台中学校 田奈小学校 奈良の丘小学校	地域とともに生きる子ども ・子ども像を共有しながら、細かな小中の情報交換を進め、児童生徒の健全育成に努めます。 ・小中学校で学校運営協議会をはじめ、家庭や地域および関係機関との連携をさらに推進することで、児童生徒一人ひとりが社会を生き抜く力の育成に努めます。 ・9年間を見通した成長を考えた連携・相互理解のため、小中合同研修会を実施し、子どもの実情に応じた教育活動、さらに共通の学校評価づくりを行います。

中期 取組 目標	だれもが安心して豊かに学べ、まちと共に歩む学校にします。 ○いじめのない学校をめざし、予防的な対応・早期発見・早期対応に努めます。 ○子どもが自尊感情を育み、自他をかけがえのない存在と実感できるよう努めます。 ○子どもが主体的に学び、成長を実感できる授業を実践します。 ○奈良のまちを知り、地域に貢献しようとする思いとまちを愛する心情を育てます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業力向上	主体的に児童自らが興味をもち、自分事として捉え、粘り強く考え説明し合えるように、算数科の重点研究を進め、問題を解決する力を養う。見方や考え方を働かせ、資質・能力を高めるために、問題解決に向けて見通しをもち、協働して学べる手立てを考え取り組んでいく。重点研究で学んだことを日々の授業に生かしていく。
担当 授業改善推進部	
徳 道徳教育	児童主体のたてわり活動にしてい。異学年のつながりが深まるように高学年児童が計画し、実践する。地域とふれあい「人」とのつながりを大切に学習活動を継続、推進していく。道徳教育の充実を図り、「礼儀」「向上心」など重点的課題に取り組んでいく。
担当 人権 道徳部	
体 健康教育	①子ども一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。体を動かすことだけでなく、心の健康についても触れていく。②運動委員会を中心に、運動に関わる集会や週間を定期的に行ったり、全校朝会や朝の会で体操に触れることで楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。③学校保健委員会では「食事のバランスを整えると腸内環境はどうなる？」をテーマに、食事と健康について考えていく。
担当 体育部	
公 自分づくり教育 社会参画	地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。児童の興味関心を引き出し、生活・総合的な学習の時間を中心に、学年に応じて、地域の人たちが関わる学習活動を行い、働くことの意義を考えられる場を設定する。
担当 生活総合的な学習部	
いじめへの対応	①学校の「いじめ防止基本方針」について全職員で共通理解し、いじめの未然防止に努めると共に、いじめに対して全職員が「絶対に許さない」姿勢でチームとなって対応していく。②アンケートや個人面談など様々な機会を通して、いじめの早期発見、早期対応に努める。また、不登校児童への対応状況などを全職員で確認する。(週1回の情報共有月1回のいじめ防止対策委員会の開催)。③児童支援専任・管理職による授業を通して、いじめを許さない風土を醸成していく。
担当 児童支援専任	
人材育成・ 組織運営(働き方)	副担任制・6部会の導入により、学年ブロックで人材育成及び校務分担を平坦化することを狙う。5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心に月1回の活動を継続して行う。ICT機器を活用し、効率的に物事に取り組んでいく。各支援員や、ならサポによるボランティア活用により、教員が授業や児童に関わることに集中できる環境づくりを行っていく。
担当 教務	
特別支援教育	①児童支援委員会や学年研の中で、あたたかい配慮を必要とする児童についての情報交換を行い、情報の共有をし、多くの視点から具体的な支援について検討する機会を設ける。②特別支援コーディネーターを中心に、丁寧にアセスメントを行い、個別の支援計画・指導計画作成・活用し、常時、支援方法を改善していく。③特別支援教育支援員や学びの支援ボランティアを活用し、児童見守りの体制を整える。
担当 特別支援教育	
児童生徒指導	①「奈良の丘スタンダード」を全職員が共通理解し、全職員が同じルールで指導にあたる。②学年研、ブロック研、いじめ未然防止・特別支援教育部を中心に、児童の様子について情報交換を行い、児童理解を深め、チームで継続的に児童を見守っていく。③よこはま子ども会議を通して、子どもの意見を聞き、児童が主体的に学校づくりに参画できる体制を整える。④小中連携を見据えた指導・支援にあたる。
担当 児童支援専任	
地域学校協働活動	学校運営委員会を中心に、地域の課題について話し合い、子どもたちの安心安全につなげる。地域COが終身となった「ならサポ」では、役割分担の明確化と連絡体制の整備を進めることで、迅速かつ機動的に対応できる組織づくりを行ってきた。今年度は、この新たな体制を効果的に活用し、より効率的な組織運営と計画的な人材活用を進め、学校と地域が協働する教育活動の充実を目指す。
担当 教務	
GIGAスクール構想	教育活動と学校運営の更なる充実を図る。横浜市学力学習状況調査の結果を、授業改善に生かす。また、「モノガサ」の校内研修を実施し、学力向上を目指すとともに、不登校児童への活用についても継続的に検討する。児童のICT活用能力向上のため、情報モラルとともに、ICT活用能力向上を目的に、学年段階に応じた技能の系統的習得を図る。「すぐる」は、使用方法の整理・改善を進め、タイムライン機能を活用して児童の様子を発信し、家庭との連携強化を図る。
担当 情報部	